

九州大学大学院にて医学博士号を取得後、米国シカゴ市ノースウエスタン大学にて客員研究員として研究活動に従事。帰国後は、国立がんセンター中央病院、福岡赤十字病院などで臨床経験を積み、消化器外科領域における専門性を深めた。

その後、九州大学病院に勤務し、第一外科および光学医療診療部において、肝胆膵領域を中心とした高度な外科治療に携わるとともに、内視鏡手術のライブ画像配信などを活用した遠隔医療教育システムの開発に尽力し、世界に先駆けてその実践に取り組んだ。アジア遠隔医療開発センター長を経て、2016年には九州大学国際医療部教授に就任。以降、臨床・教育・研究の各分野において国際的な連携を強化した。専門分野は消化器外科、遠隔医療、国際医療協力であり、特にアジア・オセアニア地域における医療人材育成と教育支援に力を注いでいる。退官後、九州大学名誉教授の称号を授与され、2020年10月より現職である九州大学副理事（国際担当）およびアジア・オセアニア研究教育機構・研究統括として、大学全体の国際化推進に加え、SDGsを中心とした社会貢献活動にも積極的に取り組んでいる。